

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

2022年度

事業所名 三鷹教室

		チェック項目	改善目標や工夫している点
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	法令順守は勿論のこと、建築基準法に基づき用途変更を行い、十分なスペースを確保している。集団クラスで子どもが多い時は、グループ分けをし、運動量が確保できるように工夫している。
	2	職員の配置数は適切である	配置加算を採用しているため、常時指導員は常に3名体制となっている。当事業所は指導員4名がすべて常勤のため、体制は整っている。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	子どもたちにわかりやすいよう、道具の配置に努めており、必要に応じ物の配置を掲示したりしている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	毎日、掃除や療育道具、床、使用物の消毒を行っている。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	個別支援計画に基づき、日々の療育の前に指導員全員でミーティングを行い、終了後にも振り返りを行い、次回の療育に繋げる対策を行っている。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	毎年自己評価アンケートを実施し、業務改善につなげている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	HPに公開している。

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

2022年度

事業所名 三鷹教室

適切な支援の提供	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	現在第三者による外部評価は行っていないが、必要に応じて検討していく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	2カ月に1度の実務研修を行い質の向上を図っている。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	フェイスシートなどを参照に日々の変化を記録し、児童発達支援計画を作成している。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	標準化されたアセスメントツールをもとに適応行動の状況把握につなげている。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	発達支援に重点を置き、中でも自立支援・運動・創作・感覚統合・他者への関わりを目的とした個別療育、集団療育を設定している。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	日々の記録を参照しつつ、モニタリング等を経て個別支援計画を作成し、それに沿った支援を行っている。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	年間計画を作成し、活動プログラムは複数の職員が担当している。ミーティング時に複数の職員で話し合いながら、児童の特性に配慮したプログラムを作成している。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	利用者の課題やご希望等も取り入れ、ミーティングにて新しいプログラムなどの立案等を行っている。

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

2022年度

事業所名 三鷹教室

16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	1人1人の目標に沿った計画を立案している。契約日以外でも適したクラス(個別療育、集団療育)があれば事前に案内している。
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	各職員で役割分担をしている。支援の内容は毎日朝礼時に指導員全員でミーティングをして打ち合わせを行っている。
18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	支援終了後に必ず毎日打ち合わせの時間を確保し、1日の振り返りミーティングの中で、気づいた点や改善点を洗い出し、次の支援につなげている。
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	毎日、利用者ごとにその日の支援に関して記録している。検討事案次第では次回までに検証、改善を行い、個別支援計画作成に反映させている。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	半年以内にモニタリングを行っている。保護者との面談も実施している。
21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	相談支援事業所のサービス担当者会議がある時は児発管が必ず参加しているが、コロナの影響により会議は開催されていない。
22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	コロナの影響等で、連携する機会がなかった。
23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	当事業所には、医療スタッフが存在しないことと、医療的ケアの必要なお子様が通所していないが、今後受けれる場合は、主治医との連絡体制は整えていく予定。

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

2022年度

事業所名 三鷹教室

関係機関や保護者との連携	24	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	当事業所には、医療スタッフが存在しないことと、医療的ケアの必要なお子様に通所していないが、今後受けれる場合は、主治医との連絡体制は整えていく予定。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	行っている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	希望に応じて就学支援シート作成の協力をしている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	今年度はコロナの影響等で研修が行われなかった。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	特に検討していないが、今後必要に応じて検討していきたい。
	29	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	担当者が市内の連絡会に参加している。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	毎回の支援終了後に、保護者とのフィードバックの時間を設け、学校や家庭での様子を伺いながら、支援の様子と合わせて、状況や課題を共通認識している。また、随時保護者からのご意見ご要望に対応できる体制を保護者へ周知している。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	特別には行っていないが、面談や日々の振り返りの中で子どもへの対応の相談・助言を行っている。

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

2022年度

事業所名 三鷹教室

保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	運営規程の内容や利用者負担額については、主に契約時にその都度している。支援の内容も詳しく説明している。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を面談時に得ている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	保護者の方からの悩み等に関する相談は指導員や児発管が悩みを聞き出すように声を掛けて助言や支援を行なっている。一人の判断で回答出来ない時はミーティングを行い回答するように心がけている。場合によっては子どもが近くにいない時間帯に電話をし、相談に応じている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	希望者には個別で情報交換などの連携を案内している。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	速やかに対応するように心がけている。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	会報は発行していないが、必要に応じてお知らせを配布している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	個人情報と思われる資料は、シュレッダーを掛けたり、カギ付き書庫の中に保管したりしている。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	一人一人の特性や障害に応じて配慮をしている。

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

2022年度

事業所名 三鷹教室

非常時等の対応	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	現在特にしていないため、今後必要に応じ検討していく予定。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	左記マニュアル類は作成してあり、職員には周知している。契約時に左記マニュアル類の有無は保護者に伝えている。さらに保護者への周知のため、左記マニュアルの詳細が目に見える箇所にあるよう検討していく。但し、コロナ禍のため、保護者が教室内に入る機会は減っている。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	定期的に全クラスにおいて地震避難訓練、火災避難訓練、不審者対応訓練を実施している。また、訓練の日程等を保護者にも周知している。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	ご利用の契約の際に保護者の方にフェイスシートを記入いただいている。毎日のミーティングにおいて職員間で情報共有をしている。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	フェイスシートにてアレルギーの有無は確認しているが、食物の提供は行っていない
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	ミーティングで話し合い、その都度記録し、共有し、対策を行っている。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	東京都主催の虐待防止研修に参加。参加した者が講師となって講習したり、虐待防止の資料をもとに内部研修を行なっている。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	組織的に決定しており、子どもや保護者へは契約時に必ず説明し、了承を得ている。 今現在、当事業所において拘束等は行われていない。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

保護者からの児童発達支援事業所評価の集計結果（公表）

2022年度

事業所名 TAKUMI三鷹教室

A：はい B：どちらともいえない C：いいえ D：わからない

	チェック項目	A	B	C	D	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	10	0	0	1	今は未就学だが、大きい子になると大丈夫かなと思うことがある。	人数や子どもたちの状況に応じて少人数のグループに分ける等に対応し、適切なスペースを確保していきます。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	10	0	0	1	とても手厚くフォローして下さっているように感じる。先生方の専門性について、いつも驚かされます！	今後も継続していきます。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	7	0	0	4		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	10	0	0	1		
適切な支援の提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	10	1	0	0		
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	9	0	0	2		
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	11	0	0	0		
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	10	0	0	1		

保護者からの児童発達支援事業所評価の集計結果（公表）

2022年度

事業所名 TAKUMI三鷹教室

A：はい B：どちらともいえない C：いいえ D：わからない

保護者への説明等	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	1	2	1	7		今後必要に応じて実施していきます。
	10	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	11	0	0	0	最初に丁寧に説明していただきました。	今後も継続していきます。
	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	10	0	0	1	支援計画を定期的に見てもらい、課題が分かるようになってきた。	今後も継続していきます。
	12	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	3	2	3	3		
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	11	0	0	0	よく声をかけていただき、活動中の様子が分かります。毎回ではないが、タブレットで運動の様子を見させてもらっています。活動の様子がわかってとても満足です。	今後も継続していきます。
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	8	0	1	2	面談をしてもらっています。送迎だけでなくとゆっくり話せないこともあるので、いい機会になっています。	今後も継続していきます。
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	0	1	4	6	コロナの影響があり仕方ないと思います。保護者の交流の機会があるといいなと思う反面、実際はどう交流をもつか難しいとも感じます。	希望に応じて個別で対応していきます。
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	11	0	0	0	新しい運動の提案をすぐにとり入れてくれる。	さらに向上できるよう努めてまいります。
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	11	0	0	0		

保護者からの児童発達支援事業所評価の集計結果（公表）

2022年度

事業所名 TAKUMI三鷹教室

A：はい B：どちらともいえない C：いいえ D：わからない

	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	7	1	0	3	行事予定はスケジュール表で確認させていただいています。	今後も継続していきます。
	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	9	0	0	2		
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	6	1	0	4	重要事項説明書内に『別途定める「マニュアルに従って対応』とあるので、おそらく実施されていると思います。この様なマニュアルは保護者にも配布していただけると有難いです。感染症マニュアルの説明を受けたいです。	実施している対応策に対しては教室内で行い保護者に周知していきます。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	7	0	0	4		
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	10	1	0	0	先生方がやさしく指導してくれるので楽しく通えている。「たくみ！」といい楽しそうにしている。	うれしいコメントありがとうございます。今後も子供たちが楽しめる事業所になるよう努めてまいります。
	23	事業所の支援に満足しているか	10	1	0	0	とても優しく安心している。	今後も安心して通っていただけるよう努めてまいります。

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

2022年度期

事業所名 TAKUMI三鷹教室

		チェック項目	改善目標や工夫している点
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	法令順守は勿論のこと、建築基準法に基づき用途変更を行い、十分なスペースを確保している。集団クラスで子どもが多い時は、グループ分けをし、運動量が確保できるように工夫している。
	2	職員の配置数は適切である	配置加算を採用しているため、常時指導員は常に3名体制となっている。当事業所は指導員4名がすべて常勤のため、体制は整っている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	事業所内は全て段差がない構造になっている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	個別支援計画に基づき、日々の療育の前に指導員全員でミーティングを行い、終了後にも振り返りを行い、次回の療育に繋げる対策を行っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	毎年自己評価アンケートを実施し、業務改善につなげている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	HPIに公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	現在第三者による外部評価は行っていないが、必要に応じて検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	2カ月に1度の実務研修を行い質の向上を図っている。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	フェイスシートなどを参照に日々の変化を記録し、児童発達支援計画を作成している。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

2022年度期

事業所名 TAKUMI三鷹教室

適切な支援の提供	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	標準化されたアセスメントツールをもとに適応行動の状況把握につなげている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	年間計画を作成し、活動プログラムは複数の職員が担当している。ミーティング時に複数の職員で話し合いながら、利用者の特性に配慮したプログラムを作成している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	利用者の課題やご希望等も取り入れ、固定化しないようにしている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	当事業所は、長期休暇時もサービス提供は平日と特段変わりがないため、基本同じ内容、流れで実施している。長期休暇期間にはイベントを実施している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	1人1人の目標に沿った計画を立案している。契約日以外でも適したクラス(個別療育、集団療育)があれば事前に案内している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	支援開始前に必ず毎日打ち合わせの時間を確保し、課題を書き出しミーティングの中で、支援方法や役割分担を行っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	支援終了後に必ず毎日打ち合わせの時間を確保し、1日の振り返りミーティングの中で、気づいた点や改善点を洗い出し、次の支援につなげている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	毎日利用者ごとにその日の支援に関して記録している。検討事案次第では次回までに検証、改善を行い、個別支援計画作成に反映させている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	半年以内にモニタリングを行っている。保護者との面談も実施している。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

2022年度期

事業所名 TAKUMI三鷹教室

	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	総則通り行っている。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	相談支援事業所のサービス担当者会議がある時は児発管が必ず参加しているが、コロナの影響により会議は開催されていない。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	情報共有は行っていないが、学校のホームページや保護者を通して年間計画を参照し、情報収集をしている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	当事業所には、医療スタッフが存在しないことと、医療的ケアの必要なお子様が通所していないが、今後受けれる場合は、主治医との連絡体制は整えていく予定。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	希望があれば随時検討していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	希望があれば随時検討していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	コロナの影響により研修などは未実施。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	希望があれば随時検討していく。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	地域の連絡会に参加している。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

2022年度期

事業所名 TAKUMI三鷹教室

	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	療育を通して出来たことや課題に関しては送迎時や面談時等に伝い合えるようにしている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	特別には行っていないが、面談や日々の振り返りの中で対応の相談・助言をその都度行っている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	運営規程の内容や利用者負担額については、主に契約時にしている。支援の内容も詳しく説明している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	保護者の方からの悩み等に関する相談は指導員や児発管が悩みを聞き出すように声を掛けて助言や支援を行なっている。一人の判断で回答出来ない時はミーティングを行い回答するように心がけている。場合によっては子どもが近くにいらない時間帯に電話をし、相談に応じている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	保護者会は行っていないが、希望者には保護者同士の連携を支援している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	速やかに対応するように心がけている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	会報は発行していないが、必要に応じてお知らせを配布している。
	35	個人情報に十分注意している	個人情報と思われる資料は、シュレッダーを掛けたり、カギ付き書庫の中に保管したりしている。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

2022年度期

事業所名 TAKUMI三鷹教室

	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	一人一人の特性や障害に応じて配慮をしている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	現在特にしていないため、今後必要に応じ検討していく予定。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	左記マニュアル類は作成しており、職員には周知している。契約時に左記マニュアル類の有無は保護者に伝えている。さらに保護者への周知のため、左記マニュアルの詳細が目に見える箇所にあるよう検討していく。但し、コロナ禍のため、保護者が教室内に入る機会は減っている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	定期的に全クラスにおいて地震避難訓練、火災避難訓練、不審者対応訓練を実施している。また、訓練の日程等を保護者にも周知している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	東京都主催の虐待防止研修に参加。参加した者が講師となって講習したり、虐待防止の資料をもとに内部研修を行なっている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	保護者に書面にて説明を行っている。また、個別支援計画にも記載している。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	フェイスシートにてアレルギーの有無は確認しているが、食物は提供していない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	ミーティングで話し合い、その都度記録し、共有し、対策を行っている。

保護者からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果（公表）

2022年度期

事業所名 TAKUMI三鷹教室

A：はい B：どちらともいえない C：いいえ D：わからない

		チェック項目	A	B	C	D	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	16	2	0	0		
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	19	0	0	0	コロナのため、見学していないので、判断できませんでした。	児童発達支援管理責任者、児童指導員、保育士を配置。法律上の配置数は満たしております。また、今後も研修に参加し専門的知識の向上してまいります。
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	13	2	0	2		
適切な支援の提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画※ i が作成されているか	17	1	0	1		
	5	活動プログラム※ ii が固定化しないよう工夫されているか	19	1	0	0		
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	2	5	3	9		
	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	17	2	0	0	単位数制度が理解しにくい。	分からないことがあればぜひご質問ください。

保護者からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果（公表）

2022年度期

事業所名 TAKUMI三鷹教室

A：はい B：どちらともいえない C：いいえ D：わからない

保護者への説明等	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	18	1	0	0	レッスン後レポートしていただいている。	今後も継続していきます。
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	18	0	0	1	面談の時に見学もさせていただいた。	クラスの状況によって見学可能なこともありますのでご相談ください。
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	3	6	8	2		
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	14	0	0	5		
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	17	1	0	1		
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	15	3	0	1		
	14	個人情報に十分注意しているか	18	0	0	1		
非常時等	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	16	1	1	1	感染対応対策を保護者に周知して欲しい。	実施している対応策に対しては保護者様にさらに周知してまいります。

保護者からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果（公表）

2022年度期

事業所名 TAKUMI三鷹教室

A：はい B：どちらともいえない C：いいえ D：わからない

の 対 応	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	17	0	0	2	
満 足 度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	19	0	0	0	とても楽しみにしている。 うれしいコメントありがとうございます。今後も子供たちが楽しめる事業所になるよう努めてまいります。
	18	事業所の支援に満足しているか	19	0	0	0	いつも手厚くご指導していただき、とても満足している。 コグトレやめないでほしい。 ご利用者様にご満足いただけるよう、職員一同精進してまいります。

※ i 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

※ ii 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障害特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。